

議事概要

会議名	令和7年度 第1回豊橋市上下水道事業経営検討委員会
開催日時	令和7年7月1日（火） 午後1時30分から午後3時00分
開催場所	豊橋市上下水道局 5階 大会議室
委員の出席状況	齊藤由里恵委員 出席（オンライン） 高橋大輔委員 出席（現地） 鈴木由紀子委員 出席（現地） 加藤智久委員 出席（現地） 藤城ひろみ委員 出席（現地） 諸石光代委員 出席（現地） 若原憲男委員 出席（現地）
会議の公開又は非公開	議題（3）は非公開、その他の議題は公開（傍聴者なし）、

発言者	発言内容
事務局	（1）会議の公開/非公開について 議題（3）には、水道料金や下水道使用料に係る具体的な改定率が含まれている。これを事務局案の段階で公開することは市民生活への混乱をきたす可能性があり、また率直な意見の交換を損なうおそれがあると考えている。 本日の議題（3）について、非公開とさせていただきたい。
委員	このことについて、事務局案のとおりとしてよいか。 ～異議なし～
委員	議題（3）は非公開とし、この部分に関する資料および議事録についても公開しないこととする。
委員	議題（2）「上下水道局ビジョン 2021-2030（改定版）」素案 事業計画、指標 ～事務局説明～
事務局	水道、下水道ともに、企業債に関する新たな指標が設定されている。この指標の豊橋市の現状数値が示されているが、この数値に対する認識について説明してほしい。 この数値は、企業債残高を年間収入総額で除した数値であり、100%の場合、企業債残高と年間収入が同額ということになる。全国の類似団体平均をみると、水道に比べて下水道の方は企業債残高が多い。本市の実績値においては、水道、下水道ともに類似団体平均を下回っており、平均よりも良好な状態である。

発言者	発言内容
委員	類似団体平均以下にする、という目標となっているが、類似団体平均よりも低ければよいのか、という疑問がある。
事務局	企業債の借入については、この水準ならよい、という絶対的な正解はない。今回のビジョンでは、企業債残高対給水収益比率、企業債残高対事業規模比率をその指標とし、類似団体平均以下とすることを、健全な企業債の借入の基準とすることとした。
委員	他にも良い指標があるかもしれないので、今後も検討を続けてほしい。
委員	指標の有収率について、高いほど、効率的に給水できているという理解でよいのか。
事務局	そのとおり。
委員	有収率の指標について、目標値を引き下げることであるがなぜか。
事務局	実績値が、令和元年度 93.1%から令和 6 年度で 91.7%と減少している。管路の更新や維持管理に関する取り組みを強化することにより、これ以上に大幅に下がらないようにすることを目指し、令和 5 年度末の類似団体平均を参考に目標値を 91.2%とした。
委員	料金回収率や経費回収率については、重要な指標であると思う。100%以上が目標値であるが、類似団体平均など、他自治体の状況はモニタリングしてほしい。
事務局	承知した。
委員	有収率や企業債残高の指標について、この目標値が適正かどうかという質問が各委員からあった。絶対的な正解がない中で、目標や基準を定めるのは難しいところだが、逆に言えば事業体としての考えをきちんと説明する必要があると思われる。例えば、類似団体平均を基準としていることについて、類似団体の姿勢が今後変化していった場合に豊橋市としてどのように考えるかということも整理しておく必要があるように思う。これらについて、きちんと分かるように今後も説明していったほしい。
事務局	今後もきちんと説明をしていきたいと考えている。
	議題（３）「上下水道局ビジョン 2021-2030（改定版）」素案 資金計画、財政見通し ～以下、非公開～